

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	67
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	評価責任者	住民生活課長 渡邊 孝司
単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化		建設水道課長 佐竹 邦夫

1 施策の概要

基本方針	住民・行政職員の防災・危機管理意識を高め、知識・技術の普及と、治山・治水、耐震改修など予防対策事業を行う、また、地区や事業所で自主防災組織を育成するとともに、ひとり暮らしの高齢者や障がい者など災害時要援護者の防災対策を図る。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	道路や河川の被災箇所については、早急な復旧に努め2次災害の予防に努めている。	津波を想定した避難訓練を実施し、危機管理意識の高揚を図るとともに、道路・河川の被災箇所については、早急な復旧と二次災害の予防に努めている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	全国的に多発している災害に対し、“自分は”、“ここは”、“大丈夫だ”との意識から、“何時、何処で発生するかわからない”との意識改革が求められている。	ひとり暮らしの高齢者や障害者などの災害時要援護者の避難体制を確立するための、自主防災組織の構築が求められている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	防災力指数						
	定義等	指数計算						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	39%（H18）	未調査	未調査	未調査	未調査		50%
指標2	指標名	防災活動の実践度（5項目平均）						
	定義等	まちづくりアンケート						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	25%（H18）	未調査	未調査	未調査	29.0%		35%
指標3	指標名	自主防災組織数						
	定義等	組織数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	0組織（H18）	0組織	1組織	1組織	1組織		17組織
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	地域ぐるみ防災推進事業	住民活動係	468	B	継続／拡充	A
②	住宅用火災報知器設置助成事業	住民活動係	112	C	終了	A
③	雄武町防災対策事業	住民活動係	4,379	A	終了	A
④	民有林火災予防巡視事業	林務係	600	A	継続／現状維持	A
⑤	町内河川小工事事業	土木管理係	4,592	A	継続／現状維持	A
⑥	雄武町都市対策事業	都市計画係	122,885	A	継続／現状維持	A
⑦	【再掲】消防団活性化事業	消防庶務係	4,316	A	継続／現状維持	A
⑧	【再掲】消防資機材整備事業	警防係	1,040	A	継続／現状維持	A
⑨	【再載】町有施設耐震化事業	建築係	1,890	A	継続／現状維持	A
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	災害を未然に防ぐ防災対策や大災害を想定した避難訓練など、住民の生命と財産を守ることは行政の使命である。
② 有効性	A	全町規模の避難訓練など、住民・行政職員の防災・危機管理意識を高め、防災・予防体制の強化を図ることは有効である。
③ 効率性	A	災害を未然に防止するとともに、想定外の大災害発生時の避難訓練の実施など防災対策を効率的に行った。
④ 公平性	A	全ての住民の生命と財産を守るための施策であり公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	直接町民の意見を聞く場は設けていないが、要望があれば反映に努める。また、まちづくりアンケートにより、防災活動の実践度の把握を行った。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
災害の予防対策は計画通り進められており、住民の危機意識の高揚を図ることに努めたが、自治会組織の自主防災組織の構築が図られなかった。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続／拡充	継続／拡充	
津波に対する避難訓練に合わせて、あらゆるケースを想定した防災体制を構築するとともに、自治会組織を中心とした自主防災組織構築を推進する。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		